

平成28年度 第1回倉吉市青少年問題対策協議会

倉吉市小中学生のいじめ・問題行動及び不登校に対する状況について説明し、早期発見・未然防止及び対応等について協議しました。

○日 時 平成28年8月18日(木) 午後3時～5時

○場 所 市役所本庁舎 第2会議室

○内 容

1 開 会

- (1) 開会あいさつ
- (2) 自己紹介
- (3) 会長、職務代理選出

2 事務局説明

- (1) いじめの認知について
- (2) 倉吉市小中学校の生徒指導上の実態の概要
- (3) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の状況について
- (4) 倉吉市小中学校の不登校の状況について

3 協 議

- (1) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の状況について
- (2) 倉吉市小中学校の不登校の状況について

【主な意見】

- いじめは、加害・被害という立場はあるが、加害者の児童が普段から被害者の児童の言葉にストレスを感じていたということを考えると、加害者の支援をしていく必要がある。それぞれに背景がある。
- 「いじめの芽やいじめの兆候もいじめである」という考え方からいけば、小さなことも認知するということである。認知数のこともだが、1つ1つに対応していくことが大事であると思う。
- LINEによって保護者間でもいろいろな問題が起こっている。大人としてのあり方を学んでいただく場をつくってほしいと強く思う。
- LINEでつながっているから自分の心がつながっているという幻想が一番の問題と思う。face to faceで話をすることに価値観をもたせないといけないと思う。
- 年々、非行の相談が増えている。ネット等を通じて、くっついたり離れたりする希薄な人間関係が、広く薄く広がっている様相かと思う。しかし、深い関係ではないのですぐに切れる。家庭と学校でタッグをとって問題行動を改善していけるといい。
- 少年事件などでは、「一番問題があるのは保護者」という案件が多い。学校だけで解決するのは限界があり、保護者のカウンセリングをしてくれるところがあればいいとは思っている。
- 不登校の子への声かけも必要だし、何より不登校の子どもを抱えている保護者の痛みを共有し支援する何かができるかと思っている。

4 その他

5 閉 会

